科学技術館「銅の日」イベント大盛況！

COPPER TOPICS

日時：令和6年8月24日（土）　午前9:30～午後4:50 場所：科学技術館4F 団体休憩室
主催：日本銅センター、日本鉱業協会、エネルギー・金属鉱物資源機構
後援：経済産業省、日本伸銅協会、日本電線工業会、ＪＸ金属、住友金属鉱山、ＤＯＷＡホールディングス、日鉄鉱業、古河機械金属、三井金属、三菱マテリアル

- 銅鉱石をさがそう
- 銅はどうやって作られるの？(銅の製造方法とリサイクル)
- 身近な銅製品(伸銅品・電線ケーブル)
- 銅について調べよう(実験と観察)

多数の家族連れが来場 子どもたちは実験に目を輝かせる

小学生の男の子二人組が、小さな手で銅のスプーンをしっかりと握りしめている。目の前には氷の塊。しばらくして、スタッフの合図とともにスプーンをナイフに見立ててゆっくりと氷の上に下ろしていく。スプーンの先が氷になめらかに入っていく様子を見て、男の子たちは「おー！」と歓声を上げた。「銅の熱の伝えやすさ」を体感してもらうブースでのひとコマだ。

科学技術館の４階に設けられた会場は大きく４つのセクションに分かれており、開始早々に親子連れでにぎわい始めた。

入り口付近には十数種類の鉱石がずらりと並ぶ。クジャク石、斑岩銅といった銅鉱石に触れながら、子どもも大人もスタッフの説明に耳を傾けていた。お隣の魚釣りコーナーも人気だ。魚の模型にはさまざまな種類の金属棒が取り付けられている。磁石の釣り針で、金属の磁性の有無を学べるという仕掛けが楽しい。

小学生たちがメモを取りながらフローチャートを見つめているのは銅の製造方法を学べるブースだ。少し難しい用語も並んでいるが、一連の流れを担当者が丁寧に説明してくれる。伸銅品を紹介する場所では、身近な銅製品と銅箔を展示、女の子が興味深く眺めていた。銅箔はテレビやパソコン、携帯などに使用されているが、手に触れる機会はなかなかないはずだ。各種電線ケーブルの展示では「実物を見られて、非常にためになりました」との声が聞けた。

銅板に触れながら銅のリサイクルについて学べるコーナーでは、使用済の銅製品も加工の過程で生じる端材も回収される仕組みができており、無駄なく再利用されていることが学べる。資源や環境といった社会的な問題を知ることができるのもこのイベントの特徴だ。

今回のイベントの来場者アンケートで『満足』との回答いただいた方は87％にのぼった。実際に子どもたちに感想を聞いてみると「いろいろな実験ができたことがすごく面白かった」、「日本で銅が取れないという話を聞いて驚いた」と笑顔で話してくれた。「楽しかったねー」と笑顔で会場をあとにする幼児連れの保護者の姿もあり、子どもだけでなく、大人たちにとっても大いに学びのあるイベントとなった。

ご来場ありがとうございました！